



2020年7月31日

マツダ、「MAZDA MX-30」を今秋国内に導入 —EVモデルに加え、マイルドハイブリッドモデルもラインアップに追加—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、マツダの新世代商品群の第3弾であるコンパクトSUV「MAZDA MX-30 (エムエックス サーティー)」を、日本国内に今秋導入いたします。



「MAZDA MX-30」マイルドハイブリッドモデル(国内仕様)

マツダは、MX-30を第46回東京モーターショー2019にて、マツダ初の量産EVモデルとして世界初公開しました。このたび新たにラインアップに追加するマイルドハイブリッドモデルは、技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」にもとづき、地域ごとに最適な動力源を適用するマルチソリューション戦略の一環として、直噴ガソリンエンジン「SKYACTIV-G 2.0」に独自のマイルドハイブリッドシステム「M HYBRID (エム ハイブリッド)」を組み合わせた「e-SKYACTIV G (イー・スカイアクティブ・ジー)」を搭載します。これにより、静かでスムーズな発進と上質なドライブフィールに加えて、モーターのエンジンアシストによる優れた燃費性能を実現しています。また、EVモデルは、今年度中にリース販売を開始する予定です。

MX-30は、自動車の常識にとらわれることなく、新しい価値の創造に挑戦した、人とクルマの新しい関係を提案するクルマです。デザイン、解放感のある室内空間、自然由来のインテリア素材、お客さまが自由な発想で多彩な楽しみ方を創造していただけるフリースタイルドア。これらを通じて、お客さま自身が自由な発想で、クルマの多彩な楽しみ方を創造し、より自分らしく過ごせる空間を提供します。

マツダは、クルマ本来の魅力である「走る歓び」によって、美しい「地球」と心豊かな「人」・「社会」を実現し、人の心をより元気にすることによって、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以上